

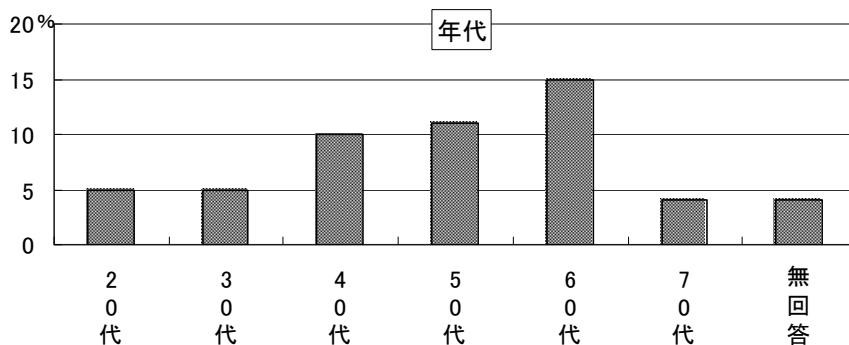
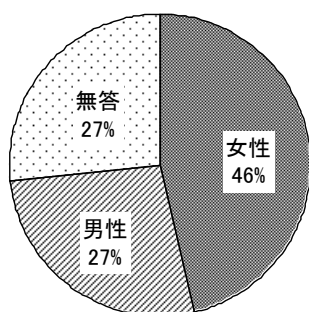
## 2020年度 第11回無料上映会

# 「だってしょうがないじゃない」 報告集

2021年2月20日(土) 室蘭工業大学 大学会館多目的ホール

- ・来場者数60、他にスタッフ12、アンケート集計数は56(スタッフ含む)です。
- ・集計結果を、用紙の質問順に載せています。グラフの目盛りは全てパーセントです。
- ・結果に対する考察をしています。最後の欄には、メンバーからの一言を載せています。
- ・ご来場、アンケートご記入、ご寄付や温かい言葉掛けに感謝申し上げます。

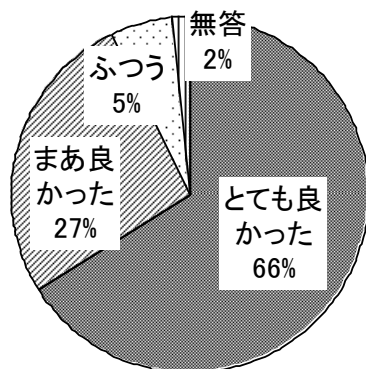
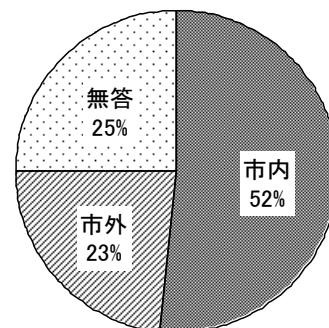
### 回答者のプロフィール



## 1 上映作品の印象

### 一言感想 (印象の理由)

- ・ 発達障害のドキュメンタリーはリアルに描かれており、考えさせられるし、理解を深めやすいと思います。今回は親亡き後の当事者についての内容で今後増加することが予想されるので、支援の充実化は必須と考えます。
- ・ 初めてこの障害の事が分かった。
- ・ ほのぼのとした日常の中にある連帯に感動。



### 「だってしょうがないじゃない」の感想

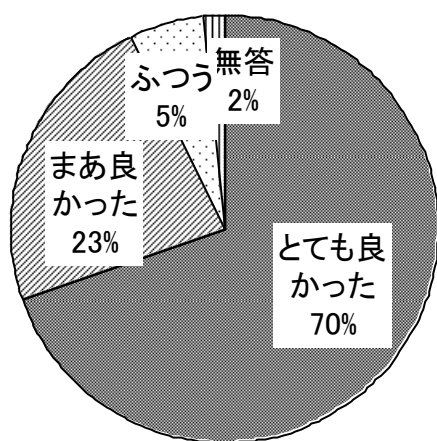
- ・ 支援対象者と支援者、家族の思いが良く伝わる内容であった。
- ・ 発達障害というものをあらためて考える事ができた。まことさんの人柄の良さも感じとれた。
- ・ 興味があった映画だったから。
- ・ 発達障がい全般のことや、これからのこと(生活など)が、映画を通じて知れること。
- ・ 坪田(監督)さんの思いがよく伝わってきた。発達障害を持っている人

の人生がどのように変わっていくのか、どうしていかなければいけないのかの問題提起だった。

- あらためて生きづらさを感じている方の存在を再認識しました。障害をかかえながら生きることのむずかしさと又その大切さを感じました。一人の人間として幸せに生き続けるサポートって大切ですね。
- 笑いがあり、共感があり、あたたかさを感じる映画でした。重い映画が少し憂鬱気味で来ましたが、とても面白く理解も出来たと思う。
- 発達障害の方と仕事上かかわることが多いことと、映画が好きなので。
- 発達障害の方が日常でどの様に過ごしたり、感じたりしているのか、カメラごしではあったが身近に感じられた。
- 発達障害の方は多いと思われます。接する方々の見守りで自立生活が出来る事に感謝と思い、色々学びました。
- 現実を直接みせていただき他人事でしたが自分達も少しでも協力出来ればと考えます。人として受け入れていなあーと。
- まことさんの素直さにいやされます。女性に気があり、性のことは皆同じ普通の感じ方だと思います。
- すばらしい。まことさん幸せですね。施設に移っても幸せでいて下さい。
- 障害のある方の生活（その先を考える事が出来ました）
- 実生活を見られた。
- 自分の家に住めなくなる（住みたくても）様子がわかりやすく進められていて良かった。とても大事な部分だと思ったのでやはりせつなくなりました。
- メリハリが無かった。撮る側にも障害があったのは、良いことだと思いました。
- 発達障害について分かりやすかった。
- 外見的な特異性が多く描かれているように感じた。当事者の内面性や周りの人達とのすれ違いについても少し掘り下げてほしかった。
- 後半、自分の老いて行くすがたと合わせていた。
- 若年者や幼児期の発達障がいについては事例だったり、実際に接する機会があったが、中高年者については初めてです。新鮮でした。
- ドキュメンタリー映画というよりもリアルな日常を切り取ったという印象。でもまわりの人たちのサポートがあり、「ゆっくりと」歩んでいるまことさんの姿を知ることができてよかった。
- 面白い内容でしたが、ドキュメンタリーということでオチ（終わり）がよくわからなかった。
- 実際の障害者の生活が実感できた。
- 坪田さんとまことさん、障害を抱えながら素晴らしい映画を作って、世に問いかけてくださった。大変考えさせられる映画でした。
- 淡々とした描写が良い。
- 実生活が描かれているのでわかりやすかった。デイサービス等利用して一人暮らしをすることはとてもいいと思いました。近所の人との付き合いがあるともっと良かったと思います、施設ではなく、地域で生きていけると思います。
- 画面の動きが急だったり早かったりして素人の映画みたいでした。内容は良かった。続きがあるのか興味があります。

- ・ 成人になった障害のある人物の生き方。周りの状況等が第三者の目で見れた。
- ・ 事実通りの生活が見れてよかった。
- ・ ドキュメンタリー映画であったため、どのような生活を送っているのか知ることができたため。
- ・ ASDを持つまことさんがどんな生活を送っているのかを脚色等がなく映されていたから。
- ・ 多様性が普通の世の中になることを願っている。
- ・ 働いている所が施設なので考え、行動がわかってよかった。
- ・ 身近にあることを丁寧に表現していたから
- ・ 初めての参加だったのですが、日常の生活が見れて面白かったからです。
- ・ 深刻な事をおもしろおかしく映している。
- ・ 現実の様子をよく知ることができた。
- ・ まことさんの暮らし、見守る人達のおもいやりが見られたので。
- ・ ありのままの生活を見せてもらったこと。
- ・ 初めの画像が揺れて見るのが辛かった。真実味が迫って来た。
- ・ この作品に共感性を感じたため。途中、アニメーションみたいなものがあったが、そのシーンはいらないと思った。また、音楽が今一つであった。トロンボーンだけのソロの曲はよくないと思った。不気味さが増してますます「発達障害」の壁を作っているように思えた。
- ・ 監督がプロと思われた。ドキュメンタリーの切り取りも編集も適切と思われて。主人公とぼくの境遇が似ていた。障害こそ違え（まことさんとぼくは同じ1957年生まれ）、現在母の残した家に独居生活の点でも似ていた。身につまされた。映画の選択が良く分かりやすかった。希望の持てる作品でした。

## 2 開催全体についての感想



映画会の全体評価

- ・ 感染拡大防止の為、席の距離を広くして、換気、消毒についてもしっかりされていた印象です。
  - ・ ありのままの日常が描かれていて身につまされた。
  - ・ 初参加なので、よく分からない。
  - ・ 皆さん親切に声をかけて下さいました。
  - ・ 前から打ち合わせに参加をしているので…。
  - ・ しっかりと準備されていて良かったです。
  - ・ しっかりアナウンスされていた。
- ・ 今後どのようになったか気になる。コロナ禍で普通どおりに生活できない今こそ考えさせられる事が多いと思う。
  - ・ 参加人数がちょうど良いと思った。

- ・ 配慮が感じられたから。
- ・ 席へ配置、除菌対策などなされていた。
- ・ コロナ禍の中、すべて周知されているので安心感がありました。
- ・ また、来年も良い映画をよろしくお願ひ致します。こういう映画を見る事が少なく、映画館やテレビでも見られないので。
- ・ このような今ですが映画会が出来てありがたいです。
- ・ 換気、人数制限などされていて安心して参加できたからです。メールで申し込みしましたが、親切に受け答えしていただきありがたく思っております。
- ・ 何人かしっかり人員を配置していて落ち着いた雰囲気だったから。
- ・ 3密でもなく、快適に観れたから。
- ・ 少々密。
- ・ コロナ対策も行っておりスムーズな進行でした。
- ・ 感染予防を可能な限りやれていたと思う。
- ・ ジェルが置いてあった。
- ・ 他者に対する配慮が行き届いている。
- ・ 疫病の対策検温、消毒、名前の記録は大事で、それを行っていたので良かった。
- ・ 少し寒い時もあったが、安心して見れました。
- ・ 消毒やマスクを徹底しており、窓を開けるなどの感染症対策も行っていたから。
- ・ 自分が思うよりも発達障害に関心を持つ人が多く、真剣に見ていた。自発的に離れたりしていたこと。
- ・ 入場人数・換気に配慮されていた。
- ・ 席も1席ずつにはなしていた。
- ・ きちんと準備してあり、感染対策もきちんとしていた。無料もうれしい
- ・ イスのすわりごこち、人の間隔、映像が見えやすい場、換気、良かったです。
- ・ 換気対策をして下さったため
- ・ 段になっていて見やすい。席が離れている広々としている
- ・ こういう状況の中でも開いていただいてありがとうございます。
- ・ 司会も換気もよく配慮されていた。
- ・ コロナ対策は万全であったが、換気のしすぎて会場が寒く感じられた。暗すぎて映像酔いを起こしてしまった。
- ・ 配慮が行きとどいていた。

### 3 発達障害について思うこと

- ・ コロナの影響で活動に制限がかかり、当事者の方々と会えなくなったが、その代わりオンラインで普段お会い出来ない当事者の方々との交流が増えた。
- ・ 本人が本人のことをうまく伝えられない特性がある中、支援者のできることは何かといつも考えてしまう。
- ・ 社会でできる事がまだまだ沢山あるのではないかと思います。

- ・ 専門医が少ないので、増えてほしいのと、相談機関が蘭東地区にあればと思う。(市役所方面に集中してるので)
- ・ 発達障害にもいろいろな症状がある。周りの理解があれば一般の人と同じ生活が出来ると思う。
- ・ 障害をかかえながら成長していく人、親が生きている間はよいですが、一人残されたあとのことを考えると胸がつかまりました。みんな幸せになり生きていきたいですね。(涙が出ました。)
- ・ 聞くこと、よく理解すること、受け入れること、そして愛情をもって接することがとても大事だと思いました。
- ・ 自分も昔から感じていたから
- ・ 障害という言葉でくくる事に違和感を感じる。
- ・ 支援員をしています。その人がその人らしく生活できる様改めて、支援を頑張りたいと思いました。
- ・ その方のすべてを受け入れて一緒に悩み考えてその日その日を充実生きていければと思う。
- ・ たまたまこういう言い方であり、私は普通の人となんら変わりはないと思っています。私も障害がありますがこれは個性として受け取っています。
- ・ ぜんぜん知らなかった現状を教えてください少し理解できた様な気がした。
- ・ みんなちがう それがあたりまえ。
- ・ 自立した生活について難しい問題がいろいろあることを感じました。実際、発達障害を持つ親族がいるので考えさせられます。(自閉症(軽い)、少々暴力行為あり)
- ・ 当事者も親も傷つくことが多くつらい障害だと。周りを困らせることも多く大変ですが、「何か」「誰か」を求めている現状を少しでも理解してもらえたらうれしいです。
- ・ できること仕事をしてもらいたい。発達障害のせいにはしないでちゃんと社会貢献してもらいたい。
- ・ 一人一人状態が異なるので難しい。
- ・ 私も発達障害がありますが周囲の理解がまだまだ進んでいないと感じています。
- ・ 映画上映の前後に地域の関連サークル(施設等)の方のお話とか聞けるとありがたいと思います。
- ・ 私自身も心障の子がおり親が亡くなった後どうすれば?考えさせられた。公的支援の受け方が知りたい。
- ・ 頭では理解できていても、実際、接する中でとてもたいへん。まして家族で毎日となれば、特に接する側の支援も必要で大切ですよね。
- ・ 「発達障害」って何だろう、誰にとっての「障害」なんだろうと考えさせられました。
- ・ 本人に言われないと気付かない可能性が高い気がした。
- ・ 自分も同じ発達障害だから、親なきあとを考えるきっかけになった。
- ・ これまで関心がありながらこのような機会がなかった。1人1人の人間として幸せに暮らせるよう寄り添っていかねばならないと思っている。
- ・ 共生していきたいのでいろいろ知りたい。
- ・ 今は小4女兒 多動神経発達症の娘。私は、保育士、シングルマザー。障害でなくとも先々のことが心配でなりませんね。
- ・ 良く知ると迷惑と思われる行動にも理由があり、共生していけると思うので一緒にいる機会を増やす(小さいころから)ことが基本だと思います。
- ・ 大学生たちが発達障害についてもっと関心を持ってくれたら良かったです。

- ・ 現在、3～6歳の主に自閉症の子を見ていますが、将来、どのようになるのかなと考えさせられました。
- ・ 暴れないで穏やかなことが人と生きていく上で大切だと思う。
- ・ 発達障害の方にはどのようなことが大変なのかということや周囲の人がどのようなことをすべきか、映画を観て考えさせられました。
- ・ 重度の方々が取り上げられているが軽いものや、いろいろな障害を含めて持つ人もいるが、個性の中にあると思う。
- ・ 70代をおいこしているか（まだ現役）もしかしてADHDかとちょっと感じている最近。
- ・ だれが正解ということもない。認知症の人の考えも近いところがあると思った。
- ・ 自分とそれ程変わらない支援者がいれば普通のこと。
- ・ まわりに理解者、支援者がいれば生活していけるが。
- ・ 少しの手伝い、フォローがあれば自立した生活ができるので周りの理解や支援の大切さを感じた。
- ・ 知っていましたが、その方の生活のありのままを見ることができて感謝します。
- ・ 理解と実行が合いまって進んでいくべき。
- ・ 「発達障害」と区分しているが、対等に接し、不十分な点を補い合えばいいと思った。
- ・ 本人は生きにくいものでしょう。でも付き合うとしたら、ぼくにはちょっと大変。

#### 4 来年の映画会参加

「参加」 41 (73%) 「不参加」 1 (15%) 無回答 14 (25%)

以前に観た映画(人) 無回答43 (初めて参加も含む)

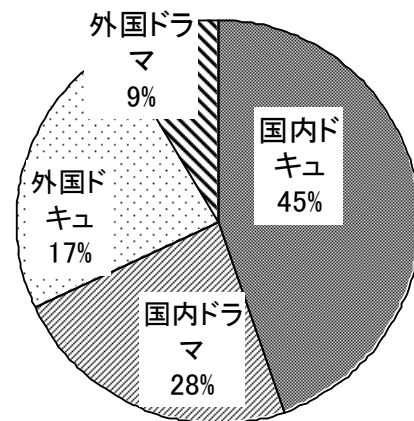
ぼくうみ	ちづる	DX	窃盗	シモン	みんな	音符	魔法	Mommy	500ペ
12	4	5	4	7	7	6	8	13	42

ぼくはうみをみたくになりました ディスレクシアな日々/あした天気になる? 39 窃盗団 シンプル・シモン/逃げ遅れる人々 みんなの学校/くちづけ 音符と昆布/エイブル ぼくと魔法の言葉たち/発達障害と家族支援 マミー 500ページの夢の東/道草

#### 5 上映作品の希望

(具体的な記入のあったもの)

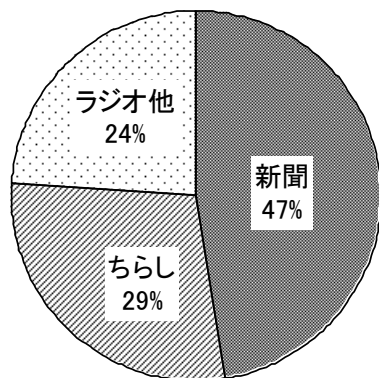
- ・ 僕が飛び跳ねる理由、旅立つ息子へ
- ・ 音符と昆布、ぼくうみ
- ・ 音符と昆布、閉鎖病棟 (笑福亭鶴瓶ら)
- ・ HDSC等関連のドキュメンタリーはないか?
- ・ なにかドキュメンタリーが良いです



希望の作品種類

## 6 映画会を知ったきっかけ

(以下の数字は実数)

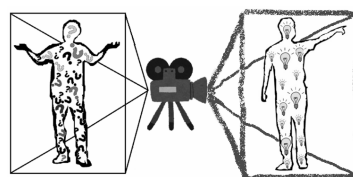


上映会を知ったきっかけ

新聞	20
(室蘭民報10、北海道新聞9)	
ちらし	12
(図書館、職場など)	
ラジオなど	10
(FMびゅー)	
市の広報	4
その他(知人など)	3

## 7 来場の動機(記入のあったもの)

- ・ 支援者として関わる機会が増えたため。
- ・ 私にも何か役に立てることがあるかもしれない。その勉強の為に。
- ・ FMびゅーを聞いたのと、元々メンバーなので。
- ・ 友人のすすめ。
- ・ 民生委員の会議で紹介され参加しました。学校現場で発達障害のある子供たちと関わってきた。
- ・ 太陽の園に勤務し、参考になると考えた。
- ・ チラシの内容を見て興味、関心があったため。
- ・ 関係者の方が案内に来て下さり、勉強になると思い又面白そうだと思った。
- ・ 観る会のメンバーとして参加。
- ・ 人間関係構築の役に立てばと。
- ・ 発達障がいについての理解を深めたい。
- ・ NHKなどを通して発達障害に興味があったから。
- ・ 運営。
- ・ 興味・関心が大いにある。
- ・ 新聞記事を読んだ後に友人にさそわれたから。



今年度は感染症対策のため、「感想会」を実施しませんでした。

## 考察1

### 上映作品と映画会について

(文責：三条)

作品の評価についてですが、「とても良かった」のみでも70%と高く、更に「まあ良かった」の評価を加えるなら93%に増え、「良くなかった」などのネガティブな評価が1件もなかったことから、

過去の作品の中でもかなりの高評価といえます。

親亡き後の当事者についてのリアルな日常、それを支える親族や支援者、ボランティア、さらには、当事者でもある映画監督との親戚付き合いというより当事者同士仲間との交流、と多彩な人間関係が描かれていました。それらの一つ一つが、考えさせられる内容でしたが、深刻になりすぎることなく、バランスのとれた内容で表現されていたと思います。

**開催方法**については、コロナウイルス感染防止対策として、ソーシャルディスタンスの確保、入場者数の制限と体温測定、マスク着用と手指消毒の依頼、常時の換気と既定時間の大換気など、開催に際しての必須事項を実施しました。事前のスタッフ間の打ち合わせでも慎重に協議をし、全員で確認しました。そうした方策が、来場の皆さんからも評価され、協力を得られて助けられました。

感染防止を優先させて、今回は上映後の「感想会」を中止としました。映画鑑賞後に感想を述べ合う機会は貴重なもので、これまでの参加者からも好評を得ていたのですが、予防を優先させることにしました。作品への思いは、アンケートに答える形で表現されていたように思えます。

参加の事前申し込み(人数制限の必要性から)など、例年になくスタイルで臨むこととなりました。常に一定量の空気の流れを確保したために、「寒い」といったご意見も頂戴することになりました。しかし、感染の可能性を抑える、クラスターの発生を防ぐための努力が必要でした。大学からイベント開催に際して必要な予防ガイドラインが示されており、それらに準拠した対応でした。また、消毒液や検温器具などは、主催者側で用意した物の他に、大学学生支援課からも提供を受けられました。多方面からの支援を得られて、実施できたことに大いに感謝しております。

アンケートには、感染予防の対策がとられていることに対して、安心できたという内容の書き込みが幾つも見られました。激励や感謝のお言葉も頂戴できて、たいへんうれしく思いました。

**発達障害について思うこと**については、様々な意見がありました。

主に支援や理解について求める内容が多く、または親亡き後の当事者についてと共生についての内容が目にとまりました。発達障害と診断されるケースが子どものみならず大人も年々増加傾向にあり支援の幅も拡がりを見せていますが充足には至っていないのが現状と考えます。

自由筆記のコメントには、支援をする立場から、『自分は何が出来るのだろうか?』『共生していける手がかかりを見つけない』『みんなで幸せに生きたい』といった前向きな意見も多い一方で、『障害のせいにしないで、社会貢献してもらいたい』との厳しい意見もありました。

確かに発達障害についての理解は一定程度広がりつつありますが、個人ごとに特性の表れ方が異なり、また外部からは見えにくい部分もあるために、周囲からは「本人の努力不足」と見なされる可能性が高いです。また、支援したいと思っても、どのように接したらよいのかわからないと、支援者の側も戸惑うこともありそうです。当事者側の視点から述べるなら、「当人は頑張っている」のだが、「思うように伝わらない」ということも多そうです。こうしたすれ違いの実態について、多くの当事者と面談して得られたのは、各人が社会と折り合いを付けられる手立てを模索し、対策を試行し、実践を積み上げている、という努力の話が多いということです。もちろん、自分なりに手の届く範囲でのこととなりますが、当事者自身は、少しずつでも前へ進もうとしている、と伝えたいです。

映画の一つのテーマであった、親亡き後の当事者の暮らしについてですが、問題化するのはいまになっています。でも、支援の形(今回だと傾聴、清掃、買い物、金銭管理など)が充実していけばそ



れなりに生きやすくなるのではという意見もあり、『自分は何が出来るのだろうか?』の問いは、当事者のみならず支援者の方々にも共通する問いなのだ、と感じました。誰もが互いに支え合いながら生きていこうとする、つまり共生は幸せなことだと感じています。

### **次回の映画会への参加**について

「参加したい」という割合が前年度の69%に比べると今年度は73%に上がりました。「不参加」の割合は、昨年度と変わらず2%でした。初参加を含む無回答が43人という反面、10年以上前の「ぼくはうみがみたくなりました」の上映に来られている方が12人（前は4人）もいて、常連の方々にも支えられているのだと強く感じました。

また、今回は事前予約制にしたこともあり、発達障害について理解を深めたいと思う方、家族や支援者の方々など実際に当事者と関わっている方が多い印象も受けました。

### **映画会参加のきっかけ**について

今回も前年に引き続き新聞が一番多い結果となりました。北海道新聞と室蘭民報にて記事が掲載された効果が現れたといえます。ちらしやラジオ放送も例年通り多かったです。毎回、賛同・協力してくださっている皆さまには、この場を借りてお礼申し上げます。理解のある方々が増えつつあるというのは、たいへん心強く感じております。

また参加のきっかけとして、市の広報紙や友人知人からの情報でこの上映会の存在を知ったという回答もありました。多様な場面で、私どもの活動が話題に挙がるのはたいへん有り難いことです。

### **来場の動機**について

映画を観る会の活動を支えてくださる方や知人同士、メディアの情報で知って来場された方、映画好きの方など、様々な方々に今年も参加頂きました。発達障害について理解を深めたい、自分も傾向があるかもしれないと感じている方々の参加も増加傾向にあるように思います。今後も映画を通じて発達障害について理解を深めていけたらと考えています。

ここで来場者の全体像についてまとめると、年代では60代が最も多く、続いて50代と40代となりました。また女性の参加が多く、男女比は1対2ぐらいになりそうです。室蘭市内からおいでになった方が半分以上でした。こうした傾向は一定していて、毎年同じような結果を示しています。今回の特筆すべき点は、アンケートの回収率です。約8割の回答を得られました。今回は、上映後の感想会を中止としましたが、その代役をアンケートが果たしたように感じています。熱心に鑑賞してもらえたことを実感できました。

**上映作品の希望**に関わって、ここで上映作品の選定経過についてまとめておきます。前年度の作品選定では、「道草」と「だってしょうがないじゃない」の二者択一で協議を行いました。上映時間を考えて「道草」を選んだ経緯がありました。今回は1作品の上映会で考えており、ドキュメンタリーの希望の多さ、上映時間などの条件から「だってしょうがないじゃない」に決定しました。

次回以降の希望ですが、国内作品の希望が70%を超えており、特にドキュメンタリー作品の希望が多かったです。ドキュメンタリーの希望が多い理由としては、当事者の実情やそれを支える家族・支援者について演技ではなく実際の映像を通して学んだり、理解することができたりする側面があるか

らだと考えています。一方、ドラマ作品については医療監修なども取り入れ現実に近づけた内容も多いですが演じている感じが拭えないという印象から、ドキュメンタリーに比べて希望する人が少ない傾向にあるように感じています。

また、具体的な作品名が書かれた希望の中には、以前に公開されたものがあり、本会の上映会で取り上げたものも入っていました。発達障害を扱った映画は、ここ数年の間で新作が多く出回るようになってきているので、旧作品も含めてバラエティ豊富な中から選ぶことができます。今後の作品選定は、一層充実したものになると予想し、期待しています。

## 考察2 発達障害「理解」について

(文責：今野)

映画を一編鑑賞したことで、あるテーマについて全てのことが理解できた、という話はあまりにも単純でしょう。しかし、全体像を見渡せない大きな対象に、少しでも光を当てることはできたはずで、そうした光を、いろんな角度から当てること（他の映画を観たり、本を読んだり、人と話し合ったりなど）で、見えにくかった実像に迫っていけるようになり、その姿は立体的に浮かび上がっていくことでしょう。

では、実際の社会全体の中での発達障害への理解は、どのように進んでいるのでしょうか。一つの傾向を知るために、発達障害に関わる内容の、インターネット上のニュース記事や各種の案内タイトルから目立ったものを以下に抜き書きしてみます。今年の1月から70日間ほどの期間からです。

- 1月
  - ・大人の発達障害…就職するまで気付かない人が多いのはなぜか
  - ・宮崎県内で初めて“大人の発達障害”に特化したプログラムを提供する就労移行支援事業「ディーキャリア」を開始
  - ・AI時代を生きる発達障害グレーゾーンの子のママに読んで欲しい『本を読まず読解力を一気に上げる～1日5分のトレーニング教材付き』電子書籍無料ダウンロード開始
  - ・自閉症スペクトラム障害市場 2021年の新たな傾向と新たな展開の分析-アストラゼネカ、ファイザー、イーライリリー、ジョンソン&ジョンソン
  - ・「キミがいなくなっても困らない」ミスをもとめた書面とともに突き付けられた退職勧告。ASD当事者が願う「誰も取りこぼさない社会」
  - ・発達障害に差別的発言 市長らに「時代錯誤」と批判の声
- 2月
  - ・発達障害/グレーゾーンの子のためのオンライン SST サービス 2月よりスタート
  - ・【新卒 障害者雇用を行う企業向け】障害学生向けイベントの集客代行サービスをリリース
  - ・発達障害の息子を東大に入れたシングルマザー 子育ての基本は「堂々と公にする」こと
  - ・大人になって「ASD（自閉症スペクトラム障害）」と診断されたら…。病気をすることでその辛さは軽減できます
  - ・「通級指導」の教員育成へ ニーズの高まり受け 新潟県教委
  - ・精神科医が語る「自分はもしかして発達障害？」と悩む人に欠けている一つの行動
  - ・自閉症スペクトラム障害治療薬 2021年から2028年の間に実質的な成長を認識する市場
- 3月
  - ・わが子は発達障害？私が思う「診断がつく4つのメリット」

- ・ 4歳で発達障害と診断された息子を公立校に通わせた理由
- ・ 【03 発達障害は個性なの？】 子どもの発達障害に理解のない旦那と義両親。どうすればわかりあえる？

新聞や雑誌の記事、ブログタイトル、本の紹介など、雑多な媒体から拾い上げています。元の記事数は1月だけで250件ほどになります。選択の基準は、最近似たような記事が多かったり、これまでに見られなかったりした新しい内容のものにしぼりました。

まず気づくのは、発達障害そのものを解説する内容が減り、既に社会的に知られている前提で書かれた記事が多いという点です。発達障害は社会にあるものだからどう対応すべきかを考えよう、という取り上げ方が増えて来ています。その「対応」ですが、子どもに対するものと、大人に対するものの両方が見られます。子ども向けには、特性に応じたトレーニングなどに誘う内容が多く、大人向けには当人が生活パターンを見直すよう促すものやハウツー的に自分の言動を先回りしてコントロールしようとするものがあります。

こうした傾向は、発達障害に対してはできることやすべきことがあって、当事者や周囲の大人はその努力をするのが当たり前である、という風潮を強めることになりかねません。社会の側は、その努力を見定めてからその程度に見合った対応をしよう、と受け身に待ち構えている形になります。これはいわゆる「医学（疾病）モデル」の立場といえます。

他にも見られる最近の傾向では、発達障害の当事者や保護者などが、自身の体験（つまりきから脱した体験、子育てで工夫した内容など）を実名で出版したり、記事に顔写真を載せたりしている例が多くなってきています。これは、体験例を参考にしたいという読者の要望が多くあるということと、発達障害を隠し立てする必要は無いという社会の変化が定着しつつあるからと判断できます。現に困っている人に、必要な情報が伝わっていくのは、確かに大事なことだといえます。

三つ目に大きな変化が認められる点は、発達障害に関わる産業分野の広がりです。つまり、発達障害への対応が商品化されてきているという流れの存在です。例えば、自閉症や多動傾向については症状を軽減させる対処療法的な処方薬はこれまでもありましたが、最近の発表には「治療薬」と受け止められるような宣伝文句を見ることがあります。他にも、スマホやパソコン上で機能するアプリも薬と同じような位置づけを与えられるようになってきています。先ほども触れた、各種のトレーニングも似た効果をアピールしています。こうした対応策の多様化は、選択の幅が増えたとポジティブに捉えることもできますが、当事者側の個人の対応を当然視している点と、その費用の出所を公的な制度とリンクさせる場合には、施設側からの価格設定が優先されてしまうことにもつながります。

発達障害について理解するというのは、当事者の側が自身の問題解決のために「理解」することなのでしょうか。それとも、社会の側が発達障害と共にあるという前提を実現するために「理解」することなのでしょうか。後者の立場は、「社会モデル」と呼ばれています。理解する努力は、社会を構成する全員に期待されているわけです。

この立場から「だってしょうがないじゃない」の映画をふり返ってみると、「理解」の努力が親族間

に限られていたように見えます。自分が一番まことさんのことを分かっている、という親身な働きかけは当人の生活を支えるものですが、まことさん自身が社会につながっていく通路が狭められてしまう可能性もあるので単純に喜べない面があります。まことさんを核にして、地域社会が発達障害を理解するための機会を設けるようできると、開かれた関係づくりから「社会モデル」を実践していけるように思えます。この映画を観て得られた体験から、私たちはさらに広い枠組みに置き直して、映画の展開とは違う方向についても、想像してみる必要があると思っています。

## メンバーからひと言 コロナ下の開催で思ったこと

(掲載が間に合わなかった人もいました)

### ・発達障害の映画を観る会 代表 4年生 I. K

コロナウイルスが影響して当然のようにできていたことであっても、行動が制限された状態で日常生活を送るようになりました。マスクを常につけて行動するということや対面での会話を減らすなど今まででは考えにくいことが常識となっています。

このような深刻な状況の中、開催するべきか、また開催してよいのかということを考えさせられました。開催が決定した後も不安が募る一方でしたが、この一年間で知り得た知識や経験を生かしてどのような工夫をして開催すべきなのかといったことを考え続けました。自分たちの努力だけではなく感染症対策に協力してくださった皆さんのおかげで実際に開催することができ、さらに発達障害について伝えるということも継続できたこと、とても嬉しく思っています。来年度は、人数等々の制限がなく、発達障害について少しでも多くの方々に伝えられる状況になっていることを願っています。

### ・司会担当 3年生 F. M

開催するかどうかについて議論した時期もありましたが、たくさんの方に上映会にご参加いただき改めてコロナ禍でも上映会を開催してよかったと思えました。また、上映会活動に参加し、映画・映像を通して得られる情報にはとても大きな力があると思えました。

私は映画“だってしょうがないじゃない”を見て、監督の坪田さんやまことさん、そしてそれを支える周りの方々の温かさをもっと感じました。これからも映画のような媒体を通して、発達障害に関して、知識以外の情報についても伝えたいと思えました。

### ・会場準備、進行 3年生 S. Y

教育課程の授業からこの会を知り参加させていただきました。映画“だってしょうがないじゃない”を通して、障害のある方の理解を深めることができました。ドキュメンタリーであったため当事者の日常を映しており、よりリアルを感じることができました。しかし私は、障害のある人達であるとあまり感じることはできませんでした。これは、外見的には気づきにくい問題もあるのではないかと思います。

映画を観る会を通して、障害のある方を知るきっかけや理解につながれば良いなと思えました。

### ・交渉担当、会場進行 3年生 H. H

教職課程の授業を通じてこの会に参加させていただきました。今回の上映会の開催を通して、配給

会社であるサンディ様との連絡や各メディアの方々と話をさせていただきました。さらに、上映会に来てくださった方々の真剣な表情から、知識だけでなく社会全体の問題であるという認識を得ることが出来ました。

この上映会で非常に貴重な経験をさせていただきました。発達障害についての理解がより広まれば良いと思います。皆様ありがとうございました。

・社会人メンバー 広報 T. K

コロナ禍で色々な所で制限がされる中でも映画会が行うことができ良かったと思います。

今回の映画会では、発達障がい当事者目線での必要な支え、これからの生活に直結する内容があった映画でした。発達障がいに限らず生きづらさを抱えている人は多く、それぞれに合った生き方、支援が必要だと私は感じますし、一人一人が生きやすい世界になって欲しいと思います。

そして、全てにおいて選択肢が少ないため、その広がりを持てるような支援をしてくれる所が必要なのではと思います。

来年度はコロナが収束して、例年通りの「観る会」の活動ができることを楽しみにしています。

・社会人メンバー 広報 ML参加 K. Y

今回、高齢者施設でお手伝いを始めた関係で観る会の活動にはほとんど参加できず、頑張っているメンバーに申し訳ない気持ちでいました。無事上映会が終了し、アンケートにはコロナ禍での開催に感謝する言葉がありました。参加してくださった方の発達障がいについて、学びたい、つながりたいという気持ちの強さが伝わってきました。この映画会を楽しみに待っている人がいる。困難な状況下でも継続していくことの大切さを教えられました。

・社会人メンバー 広報・文案チェック S. M

今回は、コロナ禍の中で開催できたこと、新規の学生参加が5名あったことをうれしく思っています。上映した映画は、昨年選定を見送ったものだったので私も興味があり、来場者の方からも好評でこれもうれしく思っています。障害を持つ人が親戚や地域、友人など多くのかかわりの中で生活できるよう、もっともっと理解を広げられたらと思いました。学生スタッフの若い力と社会人スタッフの年の功、来場した皆さんのご協力でとどこおりなく上映できたことに感謝いたします。

・社会人メンバー 広報・受け付け担当 S. R

感謝の言葉しか思いうかばないです。コロナ禍であっても上映ができました。人数制限をし、今のところ陽性者も出ていません。映画の選定もよく、しかも予算内でできました。映画は毎回深く考えさせられるもので、社会の理解が広がってくればよいと思います。ボランティアとして参加できたことを嬉しく思います。

・社会人メンバー 受け付け担当 H. Y

今年に入って今まで実行されてきた行事が規模を小さくしたり、方法を変えてやってみることが多くなりました。この「観る会」もその一つでした。参加される皆さんもコロナ対策は大丈夫かな…と思われていたでしょうが、受付の流れはとても良く（時節柄皆さん慣れていました笑）検温、消毒、

お名前の確認など快く応じていただくことができました。私自身、コロナ禍で参加する側も開催する側も経験して、ほんの少し安心感と自信を取り戻せたかも知れません。

今回の映画の中でもそうですが（参加された皆さんの感想からも）、障害の有る無しに限らず、適切に相談できる所がない現状を最近特に感じています。相談だけではなく、そこでは何が出来るのか…。この思いは聞いてもらったり、共感するだけでは収まらないことが多いからです。その所に特化する機関を（夢のようなことかも）待っている人が人知れずたくさんいると思います。これからは「理解」の次に出来ることを進めて行きたいです。

#### ・社会人メンバー 文案チェック・アンケート集計・考察1執筆 S. M

医療機関に勤務の為、打ち合わせには一切参加できず、映画会も本来ならば皆様と一緒に観賞して、感想や想いを述べたいところでしたが、それも叶わず残念でした。しかしながら、運良く事前に映画を鑑賞することが出来たことと、映画会終了後のアンケート回収に伺った際、久々にメンバーの皆さんと少しの時間ですがお話しできたことだけでも幸せだったように思います。来年は、今より少しでも前に進んで、活動の範囲が増えたらと願っています。皆様、ありがとうございました。

#### ・教職授業担当 会場進行、アンケート集約 考察2執筆 K. H

知識を得ることは一人でもできます。本を読んだりインターネットを利用したりするのは、一人でも可能です。でも、知識を深め実践に結び付ける知恵としていくのには、人との会話が何としても重要になります。その、人との関係づくりが、世界的な感染症拡大で難しくなりました。直接会っての議論ができないなら、それに代わる工夫が必要です。

今回は、「このスタイルならできるはず」と、意見を出し合って開催にたどり着きました。観客の皆さんに、私たちの思いが伝わってくれたなら幸いです。今は、実際に会っての討論は難しいので、自分自身の中で論議を深めておいて、次回の話し合いを楽しみにしています。

### 第11回無料上映会「だってしょうがないじゃない」報告集 March 10th, 2021

2021.2.20(土) ①10:30～12:30 ②13:30～15:30

2019年製作 日本119分 ドキュメンタリー バリアフリー字幕

室蘭工業大学 大学会館多目的ホール

【来場60名、スタッフ12名】

いろんな方々のご支援に助けられて、今回の企画を実施できました。

あらためて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

室蘭工業大学学務課の皆さんのご協力に感謝申し上げます。

相談場所や機材保存などで前田研究室にお世話になりました。

※この報告集へのご意見ご感想は、下記のメールアドレス宛にお気軽にお寄せください。

室蘭工業大学「発達障害の映画を観る会」ホームページ <http://muroraneiga.web.fc2.com/>

[eigakai@naravan.net](mailto:eigakai@naravan.net)